



NO.1034

2015・9・6

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八四三
F 四三・四四五八
F 四三・四四五七



「戦争法案」必ず廃案に！



飛び入りの買い物客も一緒に抗議宣伝となった駒場ベアシック前



「全国100万人総行動」に呼応して 市内3カ所でも抗議宣伝！

8月30日（日）全国で取り組まれた「戦争法案廃案、アベ政治を許さない」の大行動に呼応して、市内3カ所で連続した抗議宣伝行動が行われました。共産党も参加する「ストップ！戦争法案網走の会」が呼びかけたものです。

「市民健康プール」横の歩道には、縫いぐるみを着た参加者など約20人がプール帰りの家族などに「戦争法案廃案」を訴え、若いお母さんから「頑張ってください」と明るい声援が送られていました。

午後1時25分からは川向ベアシック店前で松浦市議が「安倍政権は追いつめられています。私たちの声をさらに広げ、必ず廃案にしようじゃありませんか」と熱く訴えました。又、母親大会実行委員会委員長の弦巻富美恵さんは「子供を産み育てる母親は、人を殺すことも殺されることも許しません。みんなの力で戦争法案を止めましょう！」と静かに訴えていました。

午後2時からの駒場ベアシック店前（歩道）では、「戦争を許さないオホーツク実行委員会」と共同して、サイレント（静かに）抗議宣伝を行いました。

飛び入りの買い物客や、大阪からの旅行者が「弟子屈のホテルで新聞記事を見て探してきました」と参加するなど、終了する頃には120人を超える宣伝となりました。

初めて参加した女性は「車の中からこんな声援してくれることにびっくりしました」と興奮気味に話していました。

菊地ひろし まっしぐら。

3日から9月議会が始まりました。共産党も参加する「ストップ！戦争法案網走の会」

の会」は8月28日、議会に「安倍関連法案の廃案を求める意見書提出の陳情書」を提出しました。

又、息長く活動を続けている「平和憲法を守る網走の会」も「安倍関連法案の廃案を求める」請願を提出しています。どちらも審議は7日の総務経済委員会で行われます。ぜひ市民の声が生かされるよう期待し傍聴したいと思えます。

「平和憲法を守る網走の会」では、30日に世話人会が開かれ、私も参加しました。今後1年間の活動方針の議論が交わされました。

若い人たちが、「自分の未来は自分たちが決める、安倍首相の勝手は許さない」と全国で戦争法案の廃案を求める運動が強まっているが、「網走の若い人たちにもっとアピールすることが大事なのではないか」。「憲法の学習会を年3回ぐらい開きたい」など活発な討論となりました。

松浦奮戦も？

9月議会が3日から25日まで開かれます。3日に議案の説明があり、

7日が総務・経済委員会、8日が文教・民生委員会が付託された議案の審査が行われますが、10月から動き出すマイナンバー制度について委員会にかかります。日本年金機構の情報漏えい事件があり、根本的な問題解決がなされていない段階での実施には、とても問題があると思います。市民の目線で議論したいと思えます。

また、今回から決算審査特別委員会を議長と議会選出の監査委員を除く、全議員が本会議場で行いますので、無党派の私も質問ができます。

決算審査は、議会のチェック機能を果たす重要な仕事なので、準備する時間があまりありませんが、決算書や資料を見ながら寝る時間を削って準備をしたいと思っています。

流水

「子どもの本・9条の会」で一緒に活動していた編集者のIさんから「子どもの本・9条の会の呼びかけ人だった古田

足日さんの本ができました。ぜひ周りの人にすすめてください」と電話が来たのはひと月前ほど前だったろうか。子ども達の大好きな「おいしいのぼうけん」の作者であり児童文学評論家でもあった古田足日さんの人間像を描いた本▼送られてきた本のちらしには「平和を素手で守り得る人間のための言葉を」とある。「原点は、勇ましく美しいことばによって戦争へと駆り立てられ『軍国少年』として過ごした痛恨の戦争体験」とも▼平和を子ども達に手渡すことを考えて続いていた古田さんたちが編集した「わたしたちのアジア・太平洋戦争」にも日本を戦争ができる国にしようとする動きに對する古田さんの危惧の言葉がつけられている。10年前だ▼8月30日、憲法を無視し、国民の声を無視し戦争への道を暴走するアベ政権に對し、全国に呼びかけられた一斉行動の日、水泳大会を終えた子ども達と一緒に、プールから出てくる人たちに「アベ政治を許さない」「戦争法案反対」のポスターを掲げながら思い出していた▼「あーくん。てだ、てをつなごう」「ふっふっふ、おまえたちをわしのねずみにしてやろう」と絵本のなかで、おそろしいねずみばあさんに追われ、思わず負けそうになり泣き出しそうになったさとしとあきらがチカラを取り戻す瞬間▼網走の見知らぬ者どうしが集まったこの日。日本中が手をつないだこの日。（た）